



# クラシノソコアゲ応援団！ RENGO キャンペーン 全道キャラバン通信

NO.48 2017.5.24 発行責任者 連合北海道組織労働局

**STOP! 長時間労働、実効ある働き方改革実現**

## 「過重労働の背景に要員不足も」



帯広藤丸前での街宣行動

十勝地協は独自の街宣車を仕立て 20 日には帯広藤丸 DP 前で街頭アンケートを実施していたが、5月21日には清水町で日高からキャラバンを引き継ぎ各町を街宣しながら帯広へ。22日は広尾から北上して帯広市内3カ所で街宣行動を展開した後、午後6時30分から帯広文化ホールにおいて十勝集会を開催し組合員ら200人が参加した。

挨拶で十勝地協の編田会長は、労働時間にこだわるのは「私たちの生活、命に直結する問題だから」と、長時間労働撲滅の取り組み強化を呼びかけた。続いて、民進党11区総支部の石川ともひろ副代表は「民進党として働く人々の命を守り生活を向上させる取り組みをしっかりと進めていく」と決意を述べた。連合北海道紺野副会長の基調提起の後、3産別・単組から闘争報告があり、全開発帯広支部の村上書記長は昨年の災害対応に触れて、「多数の職員が時間外労働100時間を超え、全道応援体制も年明けまで続いたが、そもそも根本的に要員不足」



石川ともひろ副代表

と述べ、管理職の責任回避言動など職場段階から問題を解決する必要性を訴えた。教員の長時間労働など、今回の働き方改革の対象外となっている公務職場の問題点も明らかになった。また、慧誠会労組の鶴舎副委員長からは、準職員から正職員化、ベースアップなど今春闘の団体交渉のなかで勝ち取った成果について報告があった。青年女性委員会の阿部幹事の集会アピール提起、採択の後、連合帯広の竹鼻会長の団結ガンバローで集会を閉じた。



23日は芽室から帯広、幕別、池田、豊頃を経て、夕刻に釧根地協へ引き継いだ。十勝管内は27カ所で街頭演説を行い走行距離は750キロ、これまでの走行距離は3,668キロとなった。